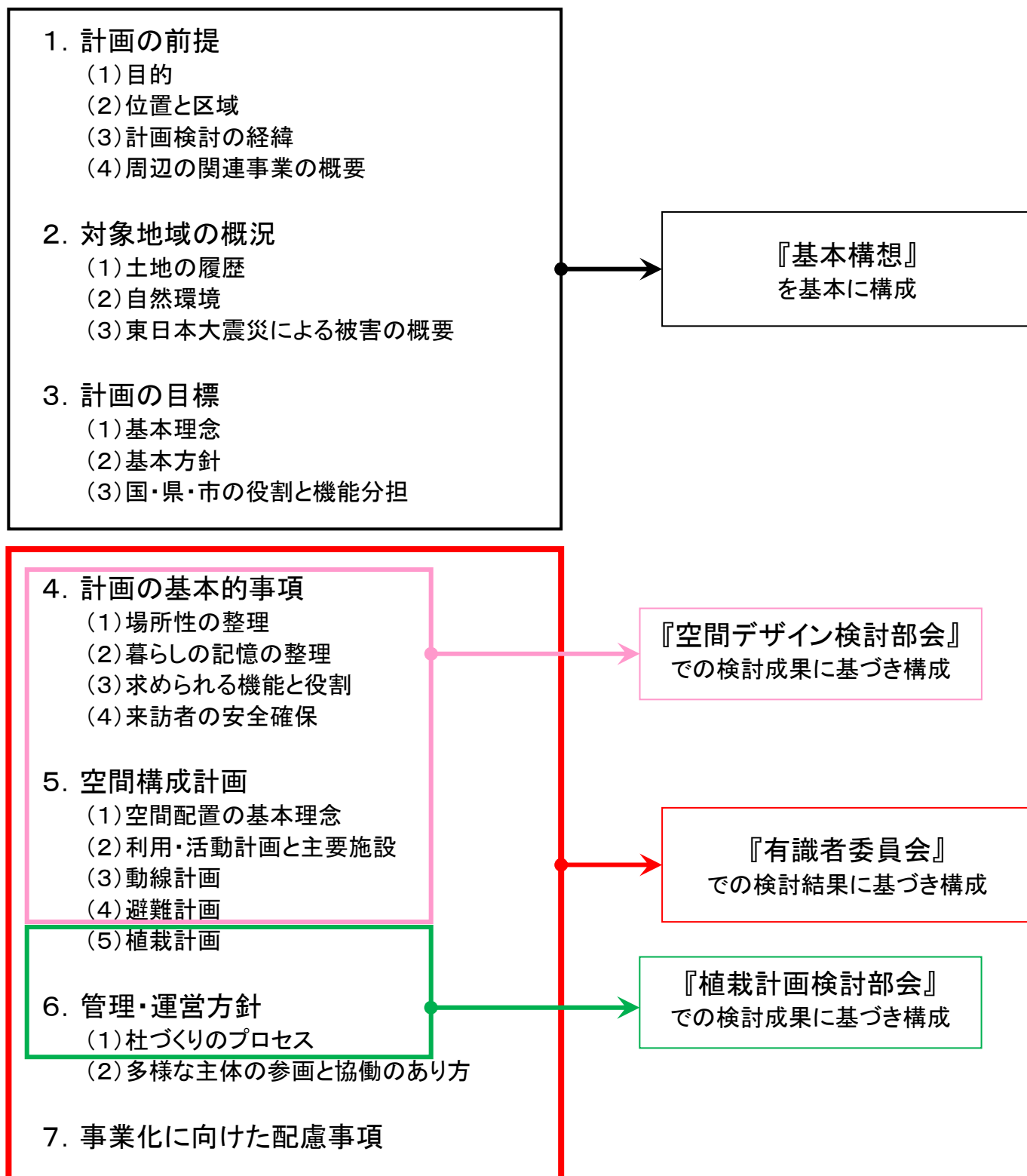


基本計画の構成(案)



1. 計画の前提

- (1) 目的
- (2) 位置と区域
- (3) 計画検討の経緯
- (4) 周辺の関連事業の概要

※基本構想を基本にとりまとめる

2. 対象地域の概況

- (1) 土地の履歴
- (2) 自然環境
- (3) 東日本大震災による被害の概要

※基本構想を基本にとりまとめる

3. 計画の目標

- (1) 基本理念
- (2) 基本方針
- (3) 国・県・市の役割と機能分担

※基本構想を基本にとりまとめる

4. 計画の基本的事項

※本委員会（資料－５）での議論を踏まえて、以下の検討課題テーマごとに、基本計画として必要な事項についてとりまとめる。

※検討課題テーマごとに、下記の点を踏まえて記載する。

(1) 場所性の整理

- 明確な記録が残る昭和 20 年代から区画整理事業が始まる昭和 30 年代までを「浜」の時代とし、南浜地区の成り立ちの歴史や風土を整理する。
- 区画整理が始まった昭和 30 年代半ばから被災直前までを「街」の時代とし、街の発展の歴史や人々の営みの様子を整理する。
- これらを重ねて見ることで、場所性の重みづけを明確にし、「祈念公園」として展開する未来への思いを整理する。

(2) 暮らしの記憶の整理

- 郷土史誌や元住民へのヒアリング結果などを踏まえ、時代ごとの暮らしの記憶や、場所への思いを整理し、求められる機能や配置計画に反映する。

(3) 求められる機能と役割

- 場所性や暮らしの記憶の整理から導かれる機能に加え、復興祈念公園として必要となる、これまでの時代にはなかった新たな機能と役割を整理する。

(4) 来訪者の安全確保

- 日和山への避難動線、多様な利用者への避難誘導のあり方、日和山が意識できる視覚的な空間整備のあり方や、避難困難者への対応方針を整理する。

5. 空間構成計画

※本委員会（資料－５）での議論を踏まえて、以下の検討課題テーマごとに、基本計画として必要な事項についてとりまとめる。

※検討課題テーマごとに、下記の点を踏まえて記載する。

(1) 空間配置方針

- 南浜地区の成り立ちの歴史や風土を踏まえつつ、震災前のかつての街路網を活用し、街の暮らしの記憶と、それが震災で失われた事実を教訓として残すような空間とするための方針を整理する。

(2) 利用・活動計画と主要施設

- 追悼・祈念、実情と教訓の伝承、杜づくり、多様な主体の参画・協働、市民の日常的な利用ニーズ、発災時の対応など多様な場面を想定しながら、必要な活動空間や主要な施設を整理する。

(3) 動線計画

- 外部からのアクセス、園内の利用・管理動線、式典などイベント時の動線、災害発生時の避難動線、川や海との関わり等を考慮した動線を整理する。

(4) 避難計画

- 式典時など最大同時利用者が対象となる場面や、日常利用時などいくつかの場面を想定し、安全かつ円滑な避難が実施されるよう避難計画を整理する。

(5) 植栽計画

- 海岸部の強風や高い地下水位など、厳しい環境条件を踏まえた杜づくりに向けた植生と緑化技術を整理する。
- 復興の象徴空間に見合う植栽配置や造成と植栽タイプの整合など、空間デザインと一体となった杜づくりのあり方を整理する。

6. 管理・運営計画

※本委員会（資料－５）での議論を踏まえて、以下の検討課題テーマごとに、基本計画として必要な事項についてとりまとめる。

※検討課題テーマごとに、下記の点を踏まえて記載する。

(1) 杜づくりのプロセス

- 杜づくりには時間を要することを念頭に置き、植栽目標や植栽タイプから導かれる樹種や数量を整理し、時間軸の中で計画的に杜づくりが進むよう体制や苗の確保について整理する。
- 杜づくりには時間を要することを念頭に置き、植栽目標や植栽タイプから導かれる樹種や数量を整理し、時間軸の中で計画的に杜づくりが進むよう体制や苗の確保について整理する。

(2) 多様な主体の参画と協働のあり方

- 伝承活動、防災学習やイベントの実施、施設の維持管理などにおいて、多様な主体が円滑に参画・協働するための場づくりについて整理する。

7. 事業化に向けた配慮事項

※本委員会での議論に基づき、関係行政機関とも協議・調整を図りつつ、関連事業の整備時期との関係を示した段階的整備の考え方、今後の周辺整備（市街地整備や景観形成・環境保全等）との連携のあり方等についてとりまとめる。

(1) 段階整備方針

- ・整備スケジュール
- ・関連諸事業との関係

(2) 周辺整備との連携

- ・周辺環境、景観の保全・形成
- ・中心市街地との連携
- ・他の被災地との連携

以上